世界人と成るべし

海田町名誉町民　織田幹雄氏をたどる

第5回

「かいたのみっちゃん」から「世界の織田幹雄」へ

海田町に生まれ、「みっちゃん」と呼ばれていた織田幹雄さん。23歳の時、日本人初のオリンピック金メダリストとなりました。

今回は、「かいたのみっちゃん」から「世界の織田幹雄」になるまでを織田さんに関する書籍や織田さんの遺した日記などから辿ります。

広島一中徒歩部全国優勝

1921年、織田さんが中学4年生のとき、新設の広島一中（※1）徒歩部（※2）に入部しました。しかし、徒歩部には指導者がおらず、陸上講習会のときの記録ノートを頼りに練習していました。

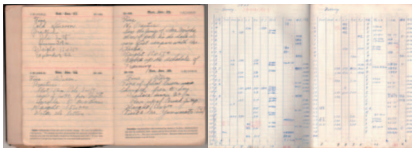
当時の広島一中では、全国大会に参加するには優勝を争っている部という条件があり、対外試合の遠征を許されているのはサッカー部だけでした。そんな中、織田さんは、神戸で開催される第5回全国中等学校競技会に参加したいと校長先生に直談判。「出場したらきっと優勝してみせる」と言ったところ、校長先生が身銭をきって旅費を出され、遠征を許可しました。そして織田さんは、見事総合優勝という結果を残しました。

日本記録と日本代表

走り高跳びで陸上競技を始めた織田さん。さまざまな種目で日本新記録更新を重ねましたが、最初の公認日本記録も走り高跳びでした。1922年の第6回極東選手権競技大会の予選で1m73㎝の日本記録を樹立。念願の日本代表となって、1923年の本選に出場しました。陸上競技を始めたとき、「日本代表のユニフォームを着るんだ」と誓った織田さんにとって、このときは日本記録を出したとき以上の喜びでした。陸上競技に出会って2年と半年のことでした。

第8回オリンピックパリ大会

陸上競技に出会ってから約3年半で第8回オリンピックパリ大会の代表選手となった織田さん。しかし、パリに到着して情報を収集してみると、三段跳びでは15mを超える選手もいました。「14mそこそこの自分など相手にならない。この際、練習方法やフォームを勉強しよう」と思い、織田さんは外国の選手と一緒に練習して観察しました。その結果、三段跳びで14m35㎝の日本記録を樹立し第6位に入賞しました。



▲全て英語で書かれた種目、体重、食事など毎日の記録

第9回オリンピックアムステルダム大会

「私にとって最良の日となった」と残している1928年8月2日。それまでに行われた走り高跳び、走り幅跳びでは実力を発揮できなかった織田さんは、開会式の後に書いた日記を読み返し、「全力を尽くすのみ」と新たな誓いを立て、三段跳びに臨みました。そして、15m21㎝を跳んで見事優勝しました。「かいたのみっちゃん」から「世界の織田幹雄」になった瞬間でした。

※1　現在の広島国泰寺高等学校

※2　当時は陸上競技部と言っていませんでした。

広報かいた9月号（No.579）　平成27年9月1日発行

発行／海田町　編集／企画部企画課
〒736-8601　広島県安芸郡海田町上市14番18号
TEL(082)823-9212　FAX(082)823-9203

ホームページ　http://www.town.kaita.lg.jp/
（携帯版）http://www.town.kaita.lg.jp/mobile/
E-mail　kikaku@town.kaita.lg.jp

印刷／レタープレス株式会社